

成果の説明書

(氏名) 木下まゆみ	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>◆研究</p> <p>集団討論における次話者の決定ルールとして、聞き手が話し手に示す身体動作に着目し、その有無と発言の流動性および理解の深化との結びつきについて検討した。その成果を、日本認知科学会研究分科会「間合い—時空間インタラクション」研究会にて発表した。</p> <p>◆授業以外の教育への取り組み</p> <p>ゼミ生および授業受講者を対象に、コミュニケーション力の向上を目的としたワークショップを開催した。講師は、インプロ・ジャパンより招聘し、即興劇を中心としたコミュニケーション・チャンネルの意識化を図った。</p> <p>◆テキスト作成</p> <p>北樹出版より、『心と付き合うための心理学』を刊行した。</p> <p>◆社会活動</p> <p>日本パーソナリティ心理学会理事として、学会賞の選考に関わる活動を行った。 日本パーソナリティ心理学会常任編集委員として、論文査読を行った。 日本心理学会「Japanese Psychological Research」の論文査読を行った。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>高崎経済大学附属高等学校にて、出前授業を行った。 高崎経済大学教員免許状更新講習にて、「教育の最新事情」を担当した。 群馬県教員育成協議会委員委員、高崎健康福祉大学学校評議員に就任した。</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>(1) 集団討論に関して</p> <p>科学研究費助成金基盤研究(c)に採択された研究課題<「協同知」の形成における視線の役割——集団討論での聞き手の同期性に注目して>を遂行する。</p> <p>(2) 思考スタイルについて</p> <p>2重過程モデルにおける合理性と直観性の2極の位置づけについて、近年の協働モデルに関する議論を整理し、研究の着想を得る。</p>	